

子ども家庭局 X方針の概要

A領域

B領域

C領域

完了

局全体

(1)市民意見の集約及び検討実施のルーティン化

・市民意見から行政手続き等の改善や施策の検討・着手・実施など、アンケート収集後の流れをルーティン化

保育

(2)「市民の声」に対応した保育所、子育て支援施設等の早期改善の実施

・インタビュー等から収集した市民のニーズを整理、解決できる要望を実施

(3)多様なこどもを受け入れる保育現場への支援

・外国籍のこどもや医療的ケア児を受け入れる保育現場の支援

(1)保育施設等への新たな保育人材の活用の検討

・ICT化を含めた保育現場の働き方改善
・新たな保育補助人材等の活用による保育サービスの提供の検討

(1)質の高い保育サービスを提供するための今後の方向性に関する検討

・公立・私立を問わず多様な保育ニーズに対応するための課題等の整理
・直営保育所の機能強化(民間保育所に対する支援など)や適正な配置数の検討、老朽化施設の計画的な建替え

子育て支援

(4)インターネットを活用した子育て情報発信の改善

・「子育てマップ北九州」の再構築に着手

(2)子育て相談体制の再編

・子育て世代にあった相談の在り方検討
・相談体制の再編

(2)児童館の今後のあり方の検討

・児童館の機能のあり方の検討
・児童館内放課後児童クラブのあり方の検討

(3)児童虐待に対する効果的、効率的な支援体制の構築

・児童福祉司の今後の配置に係る調整
・AI等の活用による情報収集能力の向上

(3)青少年施設の今後のあり方検討

・キャンプ場や未就学児対象宿泊型施設を含めた方向性の検討

こどもまんなか

(4)性別にかかわらず子育てしながら活躍できる企業文化の醸成

・企業や職場において、共働き家庭に対する子育てへの理解の促進

局区X方針〈子ども家庭局〉

1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

少子化が進行する中、北九州市内においても共働き世帯は増加しており、子育ての負担感や子育てに関する不安・悩みも増加している。こどもを産み育てたいと願う市民が安心して出産・子育てできる環境をつくるには、地域社会全体で「こどもと子育てが大切にされている」と認識されることが重要。

一方で、昭和の時代に建設された市内の子育て支援施設・青少年施設は、ハードの老朽化問題だけでなく、市民ニーズや利用状況に変化が生じており、将来を見据えて機能や役割を整理し、今後のあり方を示す必要に迫られている。

以上のことから、局のX方針に以下の4点の視点を持って取り組む。

- (1) 「こども・子育て」のステイタスを上げ、こどもや子育て当事者の目線に立つ
- (2) 子育てに関わる人の負担を軽減し、子育てをもっと楽しくする
- (3) こどもや子育てを地域や社会全体で支える機運醸成や仕組みづくりに取り組む
- (4) 子育て支援施設・青少年施設の役割や機能を改めて整理し今後の方向性を示す

完了

2 課題と背景

課題A (1)

- ① 【課題名】 市民意見の集約及び検討実施のルーティン化
- ② 【内容】
 - ・ 毎年実施している市民アンケート意見の整理・集約、対応の判断、次年度の予算等への反映検討など、市民意見をもとにした一連の流れを定型化する
- ③ 【背景】
 - ・ 「子どもプラン」の進捗確認のため、毎年市民約5,000人を対象にアンケートを収集（プラン改定年は約20,000人対象）。自由記述意見は約500件あるが、これまでは収集のみで意見の整理や対応の検討等を行っていなかった
 - ・ 令和4年度実施のアンケートの自由記入意見について昨年度検討を行い、令和6年度の施策に反映し、既に実現したものと現在進捗している案件あり
- ④ 【課題に対する取組み】
 - ・ 令和6年度以降、アンケート収集後の流れをルーティン化し、市民の声から行政手続き等の改善や施策の検討・着手・実施が行われるようにする
 - ・ 他局所管分については内容を共有し、検討を依頼する
- ⑤ 【取組みの進捗状況、取組結果（令和6年11月末時点）】
 - ・ 課題A(2)の改善や子育て施策の検討等が行われるよう自由記述の市民の声をジャンル分けし、内容を共有する仕組みを構築。来年度以降もアンケートを定期的実施

※こどもからの意見についても、今年度開始した「かなえるポスト」や「みらい政策委員会」で意見を収集し、実現の検討を行っている

課題A (2)

- ① 【課題名】「市民の声」に対応した保育所、子育て支援施設等の早期改善の実施
- ② 【内 容】
 - ・ 市民アンケートや区役所、施設の利用者インタビュー等で寄せられた市民の要望について、年度内に対応可能な改善を実施する
- ③ 【背 景】
 - ・ 市民アンケートは毎年度取得していたものの、これまで対応について積極的な検討を行っていない（施設利用者インタビューは今後実施予定）
- ④ 【課題に対する取組み】
 - ・ これまでのアンケート分析や追加実施するインタビュー等から収集した利用者のマイクローニーズを整理する
 - ・ 予算的に対応可能で短期的に解決できる要望について実施する
- ⑤ 【取組みの進捗状況、取組結果（令和6年11月末時点）】
 - ・ 令和6年9月、保育所や児童館等において、子ども家庭局内の若手職員による利用者インタビュー及び施設点検を実施
 - ・ 青少年施設の食事提供体制の変更や子育て支援施設のサインの改修など、短期的に解決できる要望に着手

課題A (3)

- ① 【課題名】多様なこどもを受け入れる保育現場への支援
- ② 【内 容】
 - ・ 外国籍の家庭のこどもや医療的ケア児の受け入れなど、多様化する保育所入所者に対応するため、保育現場の支援を行う
- ③ 【背 景】
 - ・ 外国籍のこどもや医療的ケア児の数は増加傾向にあるが、受け入れ体制が十分に整っておらず、保育現場で手探りをしながら様々な課題に当たっている。職員のヒアリングでも、外国籍の保護者とのコミュニケーションに苦慮しているとの声がある
 - ・ 医療的ケア児を受け入れる直営保育所は、従来、医療的ケア児の入所を想定した設備となっていないため、施設面でも様々な課題がある
- ④ 【課題に対する取組み】
 - ・ 外国籍の保護者へのヒアリングや他都市での対応事例の研究を行い短期的に対応可能な改善を図る（外国籍市民への分かりやすい献立情報の提供など）
 - ・ 医療的ケア児の受け入れについて、現場の声を聴きながらスペースの確保等を行う
- ⑤ 【取組みの進捗状況、取組結果（令和6年11月末時点）】
 - ・ 新規医療的ケア児受入保育所について、専用スペースの整備に着手
 - ・ 「離乳食 食材調査票」の外国語対応（英語・中国語・韓国語）を実施。その他の言語の対応についても検討中

課題A (4)

- ① 【課題名】 インターネットを活用した子育て情報発信の改善
- ② 【内 容】
 - ・ 市民の子育て情報へのアクセスを向上させるため、インターネットによる情報提供内容等を改善する
- ③ 【背 景】
 - ・ 市では子育てに関する情報を発信するHPを運営しているが、情報過多になり、操作性がよくない。
 - ・ 一方で市民からは放課後児童クラブ、児童館、保育所については個別施設の情報量が少ないなどと指摘されている
- ④ 【課題に対する取組み】
 - ・ 現在のHP「子育てマップ北九州」を利用者ニーズに対応した内容への再構築に着手する
- ⑤ 【取組みの進捗状況、取組結果（令和6年11月末時点）】
 - ・ 子育て世代に必要な情報がタイムリーに提供できるよう、既存のHPの情報の整理、ページレイアウトの変更など、内容のリニューアルに着手

課題B (1)

- ① 【課題名】 保育施設等への新たな保育人材の活用の検討(保育現場の負担軽減や効率化)
- ② 【内 容】
 - ・ 保育の質の向上を図ることを目的に、保育人材が不足する状況に対処するため、これまでの保育士の確保策に加えて、新たな人材の活用策や保育現場の負担軽減等について検討を始める
- ③ 【背 景】
 - ・ 保育人材が不足する状況が続く一方で、短～中期には、こども誰でも通園制度の開始など保育ニーズは増加することが予想される
 - ・ 保育士の有効求人倍率は依然として高水準。保育士養成校の学生数は減少傾向
 - ・ 外国籍家庭や障害児など配慮を要するこどもに対応できる高スキル人材も必要
 - ・ 保育士の業務負担を軽減し、保育士が働きやすい環境を整備することも必要
- ④ 【課題に対する取組み】
 - ・ ICT化を含めた保育士等の働き方改善に向けた取り組みを検討する
 - ・ 新たな保育補助人材等の活用による保育サービス提供の可能性について検討する
- ⑤ 【取組みの進捗状況、取組結果（令和6年11月末時点）】

以下の取組を検討中（今後、必要な財源の確保等を進める）

 - ・ 北九州市独自の「子育て支援員研修」の実施
 - ・ 「北九州市マイスター保育士制度」の構築
 - ・ 保育士資格を持たない「保育補助者（子育て支援員研修修了者）の雇用費補助」の実施

課題B（2）

① 【課題名】 子育て相談体制の再編

② 【内 容】

- ・ これまでも市・区・地域レベルで子育ての相談や交流する場を設けているが、適切な相談窓口にアクセスできていない状況や、相談者のニーズと提供体制（機能、相談方法など）のミスマッチも生じていることが伺われることから、再編を行う

③ 【背 景】

- ・ 子育て当事者の子育ての不安や悩みは増加傾向
- ・ 子育てに関する悩みについて、どこに相談したら良いかわからないといった声がある一方で、窓口によっては相談件数が減少傾向

④ 【課題に対する取組み】

- ・ 子育て当事者間の情報共有レベル、身近で日常的な相談、課題や不安を抱えることもや子育て当事者への専門的な相談など、程度や内容に応じた体制に再編する
- ・ SNS などデジタルの活用も含め、子育て世代に合った相談のあり方も検討

⑤ 【取組みの進捗状況、取組結果（令和6年11月末時点）】

- ・ 相談件数が少ない等、事業実績が低迷している事業について、令和7年度以降の統廃合を検討

課題B（3）

① 【課題名】 児童虐待に対する効果的、効率的な支援体制の構築

② 【内 容】

- ・ 区における児童虐待対応の体制強化を図るため、子ども総合センターとの役割分担を改めて整理する
- ・ 児童相談所の職員が経験の量に関わらず、十分な情報収集を行い、的確な支援を行うことができるよう環境を整備する

③ 【背 景】

- ・ 虐待対応件数が増加を続け、子ども総合センターの業務が増大する一方で、軽度虐待に対する区と子ども総合センターの役割分担が曖昧になっている
- ・ 児童福祉司等の配置は虐待対応件数を基準に法定となっているが、虐待対応件数は増加し続けているため子ども総合センターの組織が大規模化を続けている
- ・ 児童福祉司の配置を法定どおり進めてきた一方で、確実に虐待に対応するための相談スキルの育成が課題となっている

④ 【課題に対する取組み】

- ・ 児童福祉司の今後の配置について関係局と調整を行う。
- ・ AI等のデジタル技術の活用により、虐待に対する情報収集能力の向上や支援の効率化が図られるか検証する

⑤ 【取組みの進捗状況、取組結果（令和6年11月末時点）】

- ・ 区における児童虐待対応の現状把握のため各区のヒアリングを行うとともに、他都市

調査を実施

- ・ ICT を活用した児童虐待対応の業務支援として、株式会社 AiCAN（神奈川県川崎市）のタブレットアプリを活用した実証実験を実施予定（R6.12～R8.3）

課題B（4）

- ① 【課題名】性別にかかわらず子育てしながら活躍できる企業文化の醸成
- ② 【内 容】
 - ・ 共働き家庭が増加し男女ともに子育てに携わることが多くなっており、企業や職場において、子育て中の従業員に対する一層の理解の促進を図っていく
- ③ 【背 景】
 - ・ 国の「こども未来戦略」でも、子育て中の従業員への理解や男性育休取得推進など共働き・共育てを推奨しているが、企業に浸透している状況とは言えない
 - ・ 市民アンケートでも、企業の経営者や管理職の意識について、「子育てに理解がない」、「こどもが病気の時に気兼ねなく仕事が休めるような社会になってほしい」といった声が上がっている
- ④ 【課題に対する取組み】
 - ・ 関係局と連携し、横断的な取組みを検討する
 - ・ 毎年11月に行うワーク・ライフ・バランス推進月間に企業への働きかけを行う
- ⑤ 【取組みの進捗状況、取組結果（令和6年11月末時点）】
 - ・ 市政だより11月15日号の「こどもまんなか city」特集記事において、「こどもまんなかワークスタイル」に関するトピックスを掲載し、11月のワーク・ライフ・バランス推進月間に合わせ、関係局と連携しながら、企業をはじめとする市民へ広く働きかけを実施

課題C（1）

- ① 【課題名】質の高い保育サービスを提供するための今後の方向性に関する検討
（多様化する保育ニーズへの対応に向けて）
- ② 【内 容】
 - ・ 子育て世帯が、それぞれのこども・家庭の状況に応じ、官民間問わず利用したい保育サービスを利用したいタイミングで選ぶことができる環境を目指す
- ③ 【背 景】
 - ・ 市内の保育所等（保育所及び認定こども園）は188施設（直営13、指定管理4、民間171施設）。保育ニーズの9割超を民間施設が担っている
 - ・ 一方で、障害児や医療的ケア児など特別な支援を要するこどもの対応は、困難度が高いほど直営保育所が担う役割が大きい現状がある
 - ・ 直営保育所は施設の老朽化が進んでおり、早期の大規模整備（建替え等）の検討が必須となっている

④ 【課題に対する取組み】

- ・ 公立・私立を問わず多様な保育ニーズに対応するための課題等を整理
- ・ 求められる機能や役割を明確にしつつ、直営保育所の機能強化（民間保育所に対する支援など）や適正な配置数について検討し、老朽化施設については計画的に建替えを実施

⑤ 【取組みの進捗状況、取組結果（令和6年11月末時点）】

- ・ 政令市の状況調査・分析（保育所・認定こども園の内訳、直営の数、比率など）
- ・ 北九州市における障害児の受入状況の分析
- ・ ユニークな取組みの事例研究（新潟市...連携拠点園、横浜市...ネットワーク事務局園）
⇒横浜市へ訪問し詳細調査

課題C（2）

① 【課題名】 児童館の今後のあり方の検討

② 【内 容】

- ・ 地域での利用しやすさに配慮した未就学児の親子やこどもの居場所、活動の場のあり方を検討
- ・ こどもの安全性に配慮した児童館内放課後児童クラブのあり方を検討

③ 【背 景】

- ・ 児童館は概ね2中学校区に1館、計39館設置されているが、エリアの全域をカバーできておらず、自治会などの地域活動と必ずしもリンクできていない
- ・ 若い子育て世代がこどもの幼いうちから身近な市民センター等を利用することで地域との繋がりをつくり、子育ての孤立化を防ぐ必要がある
- ・ 児童館のうち4分の3は放課後児童クラブを実施しているが、保護者からは、以前より、安全性等の面から学校内への設置を望む声がある
- ・ 一部児童館は老朽化が進んでいる

④ 【課題に対する取組み】

- ・ 地域での利用しやすさに配慮した今後の児童館の機能のあり方について検討する
- ・ こどもの安全性に配慮した児童館内放課後児童クラブのあり方について検討する
- ・ 施設の老朽化だけでなく、エリア人口の傾向や子育て世代の動向、学校の余裕教室の有無などの状況を勘案し、個別に検討する
- ・ 老朽化している施設であっても、状況等によっては大規模改修等を実施し、長寿命化を図ることも検討する

⑤ 【取組みの進捗状況、取組結果（令和6年11月末時点）】

- ・ 他都市の状況調査・分析（他都市の取組事例の調査等）
- ・ 関係部局ヒアリング（学校空き施設の状況等）

課題C (3)

- ① 【課題名】 青少年施設の今後のあり方の検討
(未就学児対象宿泊型施設、キャンプ場を含む)
- ② 【内 容】
 - ・ 宿泊型を含めた青少年施設(未就学児対象宿泊型施設、青少年キャンプ場を含む)については、公共施設マネジメント実行計画で一定の方向性が示されているが、改めて全体として、民間活用を含めた今後のあり方を検討する
- ③ 【背 景】
 - ・ 宿泊型施設は、こどもの数の減少や学校行事の見直しにより、利用が減少
 - ・ 人口1万人当たりの施設収容人数は政令市2位(本市7.2人、政令市平均3.2人)
 - ・ 施設は老朽化が進んでおり、今後、大規模改修や建替えが必要
 - ・ こどもや若者・家族など利用者のニーズとの隔たりが生じている
- ④ 【課題に対する取組み】
 - ・ キャンプ場や未就学児対象宿泊型施設を含む青少年施設全体の方向性について改めて検討を行う
- ⑤ 【取組みの進捗状況、取組結果(令和6年11月末時点)】
 - ・ 青少年施設の機能や利用者に関する情報収集・分析
 - ・ 他都市の状況調査・分析(他都市の取組事例の調査等)
 - ・ 関係部局ヒアリング(学校宿泊行事の動向等)